

# 山大病院だより

2013年

新年号



## 2012年の 山大病院を 振り返って



美祢市立病院初期診療室での診察の様子

## 新年の ご挨拶

### 新年を迎えて



山口大学医学部附属病院  
病院長 岡 正朗

皆様、明けましておめでとうございます。

今年は巳年です。調べてみますと、十二支の「巳」は植物の成長が極限に達して次の生命を作り始める時期と解釈されています。昨年末の選挙により政権が交代し、期待半分、心配半分です。

病院としては、「医療人育成センター」を設置し、研修医・専門医支援部門、地域医療支援部門、男女共同参画支援部門、コメディカル育成支援部門の4部門を置き、各方面に適切な支援が実施できる体制を整えました。保育所の新設も視野に検討しています。研修医の宿泊施設を備えた地域医療教育研修センター(白翔館)も完成し、なかなか良い評判です。

機器導入では、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使用し

た手術を開始し、現在は前立腺癌に対応していますが、他の手術にも発展させるよう計画しています。また、6月頃には、弁置換術を始め高精度手術が可能なハイブリッド型手術室が完成するほか、癌治療の充実のため、高精度の放射線治療装置も導入する計画であり、3台でのIMRTが可能となります。進化し続ける大学病院であることを、是非とも誇りに思ってください。

平成26年度概算要求において、新病棟建設を含めた病院機能強化を要求するために、文部科学省と交渉を行っています。コンセプトを「地域から世界へ、高度医療の推進と医療人育成～進歩と信頼の調和～」とし、戦略性のある安定した病院経営を基盤に、社会変化に対応した先進医療の開発と人材育成に取り組み、地域住民に安心・安全な高度医療を提供することで、国民及び職員に共感を得た持続性のある病院として発展することをグランドデザインとしました。新病棟は免震構造で、災害時にも機能を維持できるよう手術室、ICU、トリアージとしても使用できるオーデトリウムなどを配置する計画です。

その準備のために第1中央診療棟の耐震工事をを行いますのでご理解ください。また、新病棟のネーミングを募集する予定ですので多くの応募を期待しています。

皆さんと共に大きな一歩を踏み出す本年が、皆様にとって、また附属病院にとって、希望あふれる年となることを心から願っています。

## 「重要な研修場面を提供してくれています。」

受け入れ側の美祢市でも丁寧な対応をしていただいております。これまでの御尽力に感謝を申し上げますとともに、地域住民の皆様の理解と参画を得ながら、今後の同初期診療室の連携運営にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

一方、本学にとっても、助教クラスの若手教員主導による初期診療室での診療活動は、研修医および医学生への教育を考える上で、本院では接することの少ない胸痛や腹痛など初期診療に欠くことのできない訴えの患者さんじかに接することができる重要な研修場面を提供してくれています。これは、問題解決能力を養うなど医学教育支援プログラムの実施という価値ある機能を初期診療室が担っていることの証ともいえます。

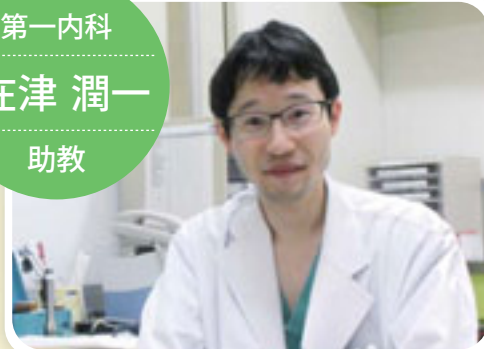


医療人育成センター長  
(皮膚科)  
武藤 正彦  
教授

本年度、文部科学省補助金事業である「医学部・大学病院の教育・研究活性化及び地域・へき地医療支援人材の確保事業」に山口大学が採択され、三診療科（循環器内科、消化器内科および小児科）に係る若手助教を選任し、美祢市との連携のもと、美祢市立病院内の初期診療室で具体的に美祢圏域における地域医療の質の向上に大いに貢献していただいています。

2012年6月より美祢市立病院内の初期診療室でお世話になっております。第一内科の在津と申します。文部科学省事業の一環として、山口大学では初の試みと聞いておりましたが、私自身が卒業6年目と消化器内科医としてはまだまだ未熟で、最初は戸惑うことばかりでした。しかし、他科の先生方や病院スタッフの皆さんからのバックアップをいただきながら診療にあたることができ、半年経った今では安心して初期診療に臨むことができいております。

地元の患者さんからも温かい言葉をかけていただき、とても励みになっております。今の自分にできることを最大限、実地診療に生かせることと申しております。今後とも宜しくお願いいたします。



第一内科  
在津 潤一  
助教



第二内科  
白上 巧作  
助教

医療機関が限られている地域では軽症から重症までの患者を診る必要があります。中には、緊急性を要する患者もいます。私は、この度、そのような患者を前にした時に、適切な判断の出来る医師になりたいと思い、応募しました。現在のところ、新規の患者さんは、1日約10人半日で約5人ぐらいです。研修医の先生と一緒に、急性腹痛、肺炎、骨折など様々な疾患の診療を行っています。美祢市立病院は、平成24年4月に開院し、現在145床（一般病床96床、療養型病床49床）の病院です。人工呼吸器は2個（+院内急変用1個）ですので、重症の患者さんは、大学病院や近隣の総合病院と連絡をとりながら、対応しています。



小児科  
太田 直樹  
助教

初期診療室に勤務して、早いもので6か月が経ちました。はじめは慣れない点も多く、患者さんに大変ご迷惑をお掛けしたかも知れませんが、ようやく業務にも慣れ、美祢市で充実した診療ができるようになりました。

現在美祢市には、小児科の入院施設はありません。しかし今回、地域医療として美祢市立病院と山口大学病院とが連携することによって、これまで以上に、重症患者の早期発見や入院への連絡が容易に行えるようになったのではないかと感じております。また、患者さんのご両親からも、大学病院で担当し、退院後も美祢の外来で診てもらったことができ、安心すると言われたことが大変印象に残っております。

今後、より山口大学から美祢市などの地域医療に貢献できるように頑張る所存です。

## 美祢市立病院での6か月を振り返って

# 2012年の活動を振り返って



平成24年6月1日に、美祢市立病院に開設された「山口大学医学部附属病院初期診療室」は、地域医療の医師不足対策と、同市立病院に地域医療教育における初期診療プランチ病院としての機能を持たせ、地域医療マインドの涵養・地域に貢献する医師養成の基盤強化を目的として設置されました。これにより、本学の医学部学生から臨床研修医までのプライマリー・ケア及び一次・二次救急を重視した教育研修体制もさらに整備されました。

美祢市立病院の本間喜一院長をはじめ、「初期診療室」の若手医師をとりまとめられている武藤正彦医療人育成センター長や勤務されている3名の医師に、開設からの6か月を振り返っていただきました。



文部科学省の事業計画の第一目的に「地域医療の医師不足対策」とありましたが、効果はいかがですか。

山口大学医学部附属病院初期診療室を設置して6ヶ月ですが、「地域医療の医師不足対策」という目的に対して想定以上の効果を感じています。山口大学の医師が週1.5日の勤務態勢で派遣されていることは、効果が高いと思う一つの要因です。

まず、常勤医の当直日数が週5〜6日から週3〜4日になりました。全国平均の当直日数と比べればまだ多いと思いますが、かなり負担が軽減され大変感謝しています。

次に、内科では原則午前までの診療でしたが、週3日の午後の診療が可能になりました。午後は急患も多いのですが、初期診療室の医師に外来を担当していただくことで、常勤医は、入院患者を落ち着いて診られるようになりました。小児科も週2日の午後の診療が可能になり、保育園や学校が終わってから診察に来られるので、大変喜ばれています。救急搬送も約40%が美祢市外に搬送されていましたが、これからは20%台まで減るのではないかと期待しています。これらの効果は、非常勤医師の採用では得られない効果です。

山口大学としては、研修医の地域医療研修（第一次診療）の充実を目的としてあげています。研修医の指導にあたってご感想をお聞かせください。

初期診療室が開設されたことにより、当院は「山口大学医学部附属病院臨床実習協力病院」に指定されました。今年度、研修医は4人、2週間ずつ研修され、学生は7名来られました。若い医師（研修医）が当院で働くことは、職員に大きな刺激を与え、病院が少し活性化したように思えます。また、研修医も初期診療室を中心に当院の様々な部門を経験し、得ることも多かったようです。

当院でも研修医がより良い研修を受けられるように、24年度中に常勤医7人の内6人が臨床研修指導医の資格を取得する予定です。さらに、3人の医師がプライマリー・ケア指導医の資格を取得しました。資格を取得することは、常勤医師の意識向上に繋がっていると思います。

また、研修医の受け入れにあたり、宿舎（3LDK）を2部屋リフォームしました。冷蔵庫や電子レンジ、TVも備えており、すぐに生活ができるようにしています。このほか、1部屋だった当直室も、2部屋に増やしました。

最後に、美祢市立病院と山口大学医学部附属病院のさらなる連携強化に向けてのお気持ちを聞かせください。

当院としても、積極的に研修医を引き受け、内容のあるものにしていきたいと思っております。たくさんの方の研修医に来ていただきたいです。初期診療室の医師と当院の常勤医が協力しあい、美祢市の地域医療がより充実したものとできるよう、頑張っていきたいと思っております。

初期診療室に勤務して、早いもので6か月が経ちました。はじめは慣れない点も多く、患者さんに大変ご迷惑をお掛けしたかも知れませんが、ようやく業務にも慣れ、美祢市で充実した診療ができるようになりました。

現在美祢市には、小児科の入院施設はありません。しかし今回、地域医療として美祢市立病院と山口大学病院とが連携することによって、これまで以上に、重症患者の早期発見や入院への連絡が容易に行えるようになったのではないかと感じております。また、患者さんのご両親からも、大学病院で担当し、退院後も美祢の外来で診てもらったことができ、安心すると言われたことが大変印象に残っております。

今後、より山口大学から美祢市などの地域医療に貢献できるように頑張る所存です。

2012年

# 山大病院NEWS

昨年のニュースをまとめてご紹介いたします。



2012  
3月

## 地域医療教育研修センター“白翔館”が完成

山口県内の臨床研修医の拠点となる施設「地域医療教育研修センター」が医学部体育館横に完成しました。当センターは、県内で臨床研修を行う研修医のための専用施設として、『地域医療マインド』を持った優れた医療人の育成を支援しています。50室の研修生自習室は、県内で臨床研修を行う研修医(歯科研修医を含む)であれば、山口大学医学部附属病院での研修の有無に関わらず使用可能です。昨年末現在で、36名の方が自習室を利用しており、研修医にも好評です。ぜひご利用ください。



地域医療教育研修センター <http://www.tikk-c.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>

## 医学系研究科中井教授らの研究グループが、がん治療に新たな道をつくる可能性がある研究成果を発表

2012  
8月



本学大学院医学系研究科医化学分野の中井彰教授、藤本充章講師らを中心とした研究グループが、産業技術総合研究所の夏目徹主任研究員らとの連携研究で、タンパク質のホモオスタシス(恒常性)を調整するための基本的な仕組みを解明しました。細胞内タンパク質は、ストレスなどで異常を発生します。そして、細胞は、そのようなタンパク質の異常を元の状態に修復するために、ストレスタンパク質の量を調節し適応します。中井教授らは、その調節に必要なタンパク質複合体(HSF1-RPA1)を発見し、この複合体ができない条件下では、マウスでの腫瘍形成が抑制されることを明らかにしました。今後は、調節に必要なタンパク質複合体であるHSF1-RPA1の相互作用を断ち切る化合物を見出すことにより、がんの治療薬の開発に結びつけることができると期待されます。2月8日(金)に、これに関連したシンポジウムが開催される予定です。

山口大学研究推進体 <http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~seika2/kennkyuusuishin/Kenkyuusuishin-2.html>



## 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入

2012  
8月



手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。「ダヴィンチ」は、内視鏡下手術用の支援ロボットで、山口県内では初めての導入となる最先端の医療機器です。この手術支援ロボットの適応が認められている診療領域は、一般消化器外科、胸部外科、泌尿器科、婦人科ですが、本院では、平成24年4月から保険適用となった「前立腺がんの全摘出手術」から始めました。12月13日現在で、11件の手術を行いました。本院は、今後も患者さんの立場に立った医療、より先進的な医療の実施などに努めていきます。

## 大規模災害に備えた合同訓練に参加

2012  
6月



6月15日、大規模災害における災害対応力の向上を図るため、山口県による県災害対策本部の応急対応に係る図上訓練と、災害現場における救助救急機関の連携に係る実働訓練が実施され、ドクターヘリおよびDMATチームが実働訓練に参加しました。同訓練には、山口県のほか、県警や消防、自衛隊、災害派遣医療チーム(DMAT)など約260人が参加し、生き埋め救助、がれき救助、都市型救助(ロープレスキュー)、航空救助が実施されました。訓練後、DMAT隊員の奥谷信也さんは「初めての実働訓練ということもあり、様々な問題点・改善点が見つかった。実際の災害発生時には、素早く活動できるように、日頃から準備・訓練等を積み重ねていきたい。」と感想を話されました。

## 医学部附属病院に「山口県地域医療支援センター」設置

2012  
7月



山口県地域医療推進室と本院に「山口県地域医療支援センター」が設置されました。このセンターは、医師不足の公的医療機関等への医師の効率的な配置や、医師のキャリア形成支援を行うこととしており、本学は医師のキャリア形成支援や情報発信の業務を担っています。医療人育成支援センターと連携しながら、山口大学医学部の福田吉治教授と中村浩士准教授が専任医師として従事しています。



センターでは、研究志向の高い本学医学科生に対し、学内や海外ラボへの実践研究参加の情報や機会を仲介し、山口県及び日本の、ひいては世界の将来を支え、何処へ行っても周囲の心を動かすことができる医師・医学者を育成していきたいと考えています。情熱をもった学生の皆さんの利用をお待ちしています。

## 医学部にSMACを設置

2012  
11月



11月に、アカデミックドクター(高度学術医)の育成を目的として、本学医学部にSMACが設置されました。アカデミックドクターとは、生命、病気及び医療を科学的な観点からとらえることができ、生涯続く研究心(学術的向上心と探求心)と国際的視野を持ち、特に大学等の医学研究活動を通じて、世界レベルで活躍することができる医師や医学者のことをいいます。

## Topics

### 臨床試験申請支援システムの運用を開始

臨床試験支援センターでは、昨年11月より臨床試験申請支援システムの運用を開始しています。当システムの主な目的は、研究者の皆さんによる研究計画書の申請書類作成支援を行い、日常業務で多忙な研究者の皆さんの負担軽減を図ることです。

これにより、部門間における情報の共有・進捗管理も容易になることが期待されます。

当システムは臨床試験支援センターのホームページからダウンロードすることが出来ますので、是非ご利用ください。

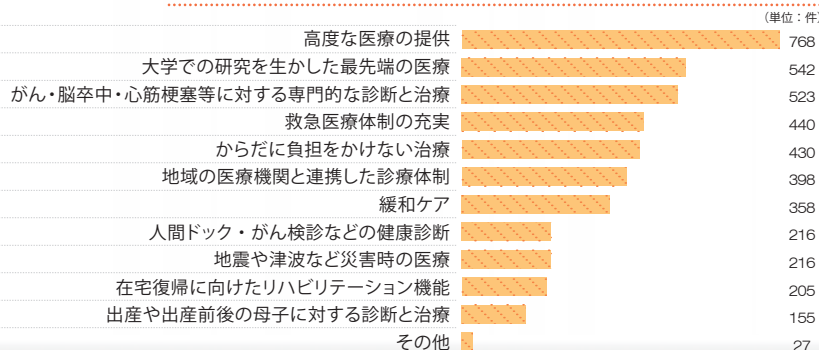
●臨床試験支援センター：TEL 2428

ホームページ：<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~crc-di/frame.html>



UBEたまちゃん

### 病院機能について 山口大学病院に期待する機能は何ですか? (複数回答可)



## Topics

### 外来患者さんへのアンケート集計結果

本院では、定期的に外来患者さんにアンケートを行っています。2012年に行ったアンケート結果の一部をご紹介します。

実施期間 11月12日(月)～16日(金)  
配布時間 8時～12時

# Human

## ひと

山口大学医学部附属病院にまつわる方々を紹介します。



### 就任インタビュー

山口大学の印象はどうですか？

8学部を持つ大きな総合大学ですので、学部を超えた協力関係が期待できそうですね。伝統だけでなく、未来に向けた可能性の高い、素晴らしい大学だと思います。

山口での生活はいかがですか？

お陰様で生活の方はなんとか落ち着いて参りました。むしろ横浜に戻ると都会なりの不便さに気付かれます。

山口大学の教授に就任されての感想をお聞かせください。

送り出して下さった横浜の先生方と、迎えて頂きました山大的の期待を裏切らないよう、実績を残していきたいと思えます。

「専門である『システム神経科学』とは？」

システム神経科学とは、学問体系に捉われず、生理学的、組織学的、分子生物学的、様々な方法を駆使して、個体システムの中での脳・神経系の機能・意義を解析し、追求する学問だと思えます。私は、海馬学習機能のシ

ナブスレベル、分子レベルでのメカニズム解明を目指しています。

今後の目標や、成し遂げたいことはありますか？

研究では、海馬を一つのモデルとして、脳内情報処理のしくみや法則をひとつずつ明らかにすると共に、最終的には脳内情報の解読に迫りたいと思います。

全世界にはアルツハイマー型認知症の方が3500万人おられ、2050年までは1億人を突破すると試算されています(Whoreport 2009)。学習・記憶のメカニズム解明は、認知症の改善や治療戦略の確立に必要な情報を提供できるはずで

講義や実習では、生理学の面白さを感じてもらえるよう努力します。また、我々の研究室から一人でも多く、将来の学問を引っ張る人材を輩出したいと考えています。

学生や若手研究者の皆さんに一言。

人類は20世紀にDNAの情報解読に成功しましたが、21世紀には脳内情報の解読に成功すると考えています。時代に淘汰されない、歴史に残る研究を目指しましょう。

先生のモットーは？

好きこそものの上手なれ。

ご趣味は？

過去にはいろいろありましたが、今は研究が趣味みたいなものです。お忙しい中、ご協力くださりありがとうございました。

## Report

# イベントレポート



様々な出来事をご紹介します。

### 2012 11月 臨床研修指導医養成講習会

11月16日(金)、17日(土)の2日間わたり、宇部市内のホテルにおいて、本院主催の臨床研修指導医養成講習会を開催しました。



タスクフォースには、名古屋大学の植村和正先生(本学S58年卒)をはじめ、5名の先生をお招きし、指導医として身につけるべきカリキュラムプランニング(目標・方略・評価の立案や、フィードバックの技法聴く・認める・次に生かす)などをワークショップ形式で指導していただきました。本院を中心に、若手からベテランまで30名の医師の参加があり、参加者からは「研修制度について改めて考える機会が得られて良かった」「体系的に指導法を学ぶことができた」「他科の医師とディスカッションできたのが良かった」などの感想が聞かれました。講習会終了後には、岡病院長より厚生労働省医政局長印の入った修了証が授与されました。

良き指導医として、講習会を修了された先生方のご活躍を期待しています。

### 2012 11月 AEDを地域に広める会 第61回宇部まつりに参加!!

「AEDを地域に広める会」が、今年も宇部まつり(11月4日(日))に参加しました。市役所前にAED体験コーナーを設け、特設ステージでは寸劇を行い、緊急時のAEDの使い方やその効果などが分かりやすく伝えられ、来場者にも大変好評でした。同会は、1人でも多くの方にAEDを知ってもらうため、先進救急医療センター看護師を中心に平成19年に結成され、地域での啓発・普及活動を続けています。



\*AED:自動体外式除細動器

### 2012 11月 総合訓練

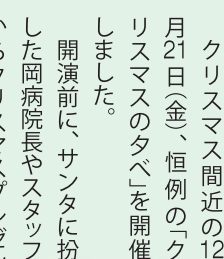
11月16日(金)、宇部市消防本部の指導協力のもと、総合訓練を実施しました。



訓練では、地震により第1病棟5階が出火したとの想定により、5階での初期消火訓練をはじめ、避難誘導訓練、通報訓練、自衛消防団の設置訓練を行いました。特に、5階はレスキューマットを使用している水平移動及び階下移動訓練、6階はデモ機を使つての車椅子避難訓練を行い、実践の中で初期操作を学びました。避難訓練後は、屋内消火栓、消火器の使用方法及び操作訓練のほか、先進救急医療センターによる化学災害対処訓練を行いました。

### 2012 11月 優勝「ギネ」(第一病棟四階西)

11月17日(土)に、教職員レクリエーション行事のバレーボール大会が開催されました。



全12チーム・総勢135人という大勢の参加者を得て、各試合で熱戦が繰り広げられました。特に、決勝戦は緊迫したゲームとなり、結果、栄えある優勝を手にしたチームは、ユニフォームを揃え、一致団結して挑んだ「ギネ」(第一病棟四階西)。

優勝した「ギネ」は、昨年の準優勝チーム。昨年の悔しい思いを晴らした見事な優勝でした! 次回大会も、優勝を目指し、多くのチームの参加をお待ちしています。



平成24年度  
「病院優良従業員表彰」受賞  
板垣 智恵子 看護師長  
川村 和美 看護師長  
倉田 町恵 看護師長



受賞、おめでとうございます。

板垣智恵子看護師長及び川村和美看護師長が、社団法人山口県病院協会から、県内の病院に従事する勤務成績の優秀な方として「病院優良従業員表彰」を受賞され、6月28日、病院長室において伝達式が行われました。岡病院長から表彰状と記念品が手渡され、永年の功労に対する敬意並びに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞が述べられました。あわせて、倉田町恵看護師長から、6月17日に「山口県健康福祉功労者優良看護職員」として知事表彰を受賞されたことの報告会も行われました。当日は、花田看護部長、阿部事務部長も同席し受賞を祝しました。

### 2012 12月 クリスマスの夕べ

クリスマス間近の12月21日(金)、恒例の「クリスマス夕べ」を開催しました。



開演前に、サンタに扮した岡病院長やスタッフが配られました。山口大学のマスコットキャラクター「ヤマミイ」もかけつけ、握手や記念撮影など大人気でした。岡病院長の挨拶で開演し、オープニングでは「たんぼほ保育園」のさくら組(年長)園児たちの「年下の男の子」の音楽隊の曲にあわせてかわいいたんぼほに、温かい拍手が送られました。

続いて学生サークルの医工学部管弦楽団と医学部軽音楽部によるクリスマスソングの演奏が行われ、最後は全員で「Santa Claus is Coming to Town」を合唱し、約200人の参加者は、とても楽しい時間を過ごしました。

### 看護部 新人看護師さんにインタビュー!!



一病棟十階東(三内科) 石田 縁さん / A型

- Q 小さい頃、なりたかった職業は？  
A アイスクリーम屋さん。
- Q 自分を動物に例えるとう？  
A 豚。おだてられれば木にも登ります!!
- Q ところで、犬派?ねこ派?  
A ねこ派です。
- Q 好きな食べ物?  
A 二十世紀梨、モンブラン。
- Q 趣味は?  
A 読書です。
- Q 好きなスポーツは?  
A バドミントン、ソフトテニス。
- Q 仕事をしている中で、楽しい(うれしい)ことは?  
A 患者さんからお褒めの言葉をいただいた時はうれしいです。
- Q 反対に苦しい(辛い)ことは?  
A 就職して半年経ちますが、朝の早起きには慣れません。
- Q 最後にどんな看護師を目指されますか?  
A 気配り、心配りのできる素敵な看護師になりたいです。

### 医学部園芸部って知ってますか?

医心館の横の花壇には、いつも綺麗な花々が咲いています。花を紹介するプレートには医学部園芸部の名前がありました。「医学部園芸部」って・・・?

「医学部園芸部は、本学部学生によるサークルです。2年前に発足し、現在の部員数は23名。季節ごとに花壇の花を植え替え、医学部内の景観の美化にボランティアで取り組んでいます。

24年度のテーマは「漢方」。身近にある花が漢方に使われていることを、みんなにも知って欲しいと思います。今年も、新中央診療棟の屋上庭園にも花を植える予定で、入院患者さんに、少しでも楽しんでもらえる空間ができればと思っています。

ただ、今年卒業予定の部員が13人もいて、植える作業はいつも人手不足です。一緒に作業してくれる人がいれば嬉しいですね。」と、笑顔で話してくれたのは、代表の堀之内瑠美さん(医学部5年生)。

医学部内のみならず、附属病院の美化にも取り組む予定の医学部園芸部。病院だよりは、医学部園芸部を応援し、今後も活動を追跡取材する予定です。是非、皆さんもご協力をお願いします。



園芸部に関することは m065eb@yamaguchi-u.ac.jp (堀之内代表)までお問い合わせください。

# 岩国市・羽ばたけ日本の救難飛行艇!



写真1 第71航空隊のマーク



高いところから失礼します。  
地域医療推進学講座の中村です。

今回は、昨年のドクターヘリに続いて“海と空の医療”をテーマにしたいと思います。昨年末に岩国錦帯橋空港が開港となり、全日空便が1日4往復就航して山口県

東部や広島市街からの東京へのアクセスが断然よくなったことは皆様ご存知と思います。しかし、この岩国錦帯橋空港と同じ敷地内にある、海上自衛隊岩国航空基地には、世界で唯一の救難飛行艇部隊があることはあまり知られていないと思います(写真1)。この岩国航空基地に配備されている国産の救難飛行艇は、世界最高の外洋着水性能を有した優れたものです。飛行艇(flying boat)とは、水面発着出来る機体のうち、胴体部分が水面に接するように設計された飛行機のことです。世界的にもかなり珍しい飛行機で、航空マニアには堪らないそうです。2007年には、従来型機(US-1A)に加えて新型機(US-2)も配備され、飛行場のない離島や洋上からの急患搬送といった、特殊な救急現場で活躍しています(写真2・3)。岩国航空基地第71航空隊では、通常は運行距離や天候上の問題からドクヘリではカバーできない小笠原諸島、とりわけ父

島・母島への救難・医療活動が多いそうです。

地域医療推進学講座では、縁あって、毎年夏に学生や職員を募り、この海上自衛隊岩国航空基地を訪問して飛行艇やシミュレーションセンターの見学会や、自衛隊隊員との意見交換会を開いて洋上や孤島での医療を学んでいます(写真4)。これらの取り組みは、これまでに3回実施しております(詳細は講座発行の報告書をご参照下さい)。医療は病院内の限られた空間でなされるだけではなく、海に空に陸に、人のいる所には遍く必要とされます。さまざまな形態の医療を、見て聞いて感じて、その素晴らしさと責任の重さを学び、医療に対するモチベーション向上に繋がれば素晴らしいと考えています。

最後に私の好きな言葉をひとつ、「苦しい 疲れた もうやめた では 人の命は 救えない」です。作者は不明ですが、海上保安庁職員の手拭い기에書いてある言葉です。この言葉はそのまま医療にも通じるのではないのでしょうか?そして休む時はしっかり休んで、オンとオフを上手に使い分ける。救難飛行艇から学ぶことは多いと思います。

【地域医療推進学講座 中村浩士】



写真2 編隊飛行中の飛行艇。奥からUS-2(3号機)、US-2(試作2号機)、US-2(試作1号機)、US-1A。



写真3 格納庫から出る飛行艇。



写真4 海上自衛隊隊員との記念撮影。

## お知らせ(TV放送)

「山口から世界へ!」世界をリードする最先端の研究をわかりやすく地域へ紹介!!

## 医進! 前進! ~山口大学医学部研究室探訪~

**放送日** 毎週水・土・日曜日  
11:45~12:00、20:00~20:15  
※放送時間は、変更される場合があります。

**放送局** 山口ケーブルビジョン(ケーブルTV)  
上記時間帯にて、絶賛放送中!!

## ● 編集担当(総務課・総務係: K.T.、C.I.)

新年あけましておめでとうございます。  
今号より担当が変わりました。  
要領が分からないながらも、周りの方に助けられ、  
どうにか無事に発行することができました。  
取材等にご協力くださった皆様、ご指導くださった皆様、  
本当にありがとうございました。  
今後とも「山大病院だより」をよろしく申し上げます!

## 編集後記



すぐ使える

豆知識  
コーナー

ハーブを使ったまめまめ情報

<風邪&インフルエンザ予防の巻>

### タイムティーのマウスウォッシュの作り方

- 材料(3~4回分)  
タイム…小さじ1、熱湯…100ml  
ハチミツ…小さじ1



### ● 作り方

- ① ティーポットにタイムを入れ、熱湯を注いでふたをし、10分おく。
- ② ①を茶こしてこしてハチミツを加え、容器に移す。

\* 冷蔵庫で4~5日保存できます

\* 市販のプレスケア商品と違い、刺激がなく優しいので、お子様にもおすすめです☆

## ご意見・ご要望をお待ちしています!!

今後、ますます充実した誌面にしたいと考えておりますので、  
読者である皆さまからの活発なご意見・ご要望をお待ちしています。

ご意見・ご要望は **FAX** 0836-22-2113  
こちらへ **E-mail** me202@yamaguchi-u.ac.jp